

つ七夕まつり（笹流し）

笹流しの始まり



岩田川清掃（津青年会議所）



つ七夕まつりのはじまり

現在、多くの市民に親しまれている「つ七夕まつり」は、岩田川の浄化活動から生まれたお祭りです。かつて岩田川は「日本一汚い川」とまで言われ、生活排水に加え、自転車、原付、タイヤなどの大型ごみが投棄され、悪臭の漂う荒廃した川でした。

その状況を変えようと立ち上がったのが、丸之内商店街で「安濃津ばき」で知られる大谷明氏です。当時、百五銀行に勤務していた大谷氏は、幼いころから親しんだ岩田川が汚れていく姿を見過ごすことができず、「体力のあるうちに」と定年を前に早期退職。岩田川の清掃活動に人生をかける決意をされました。



大谷氏は、清掃活動のために小型船舶や建設特殊機器など4種類の免許を取得し、週の半分以上を岩田川の清掃に費やしたといます。干潮時には川底のへドロを掻き出し、満潮時には船で回収する作業を

毎日のように繰り返されました。体に染みついた悪臭は簡単には取れず、家族の支えがなければ続けられなかったと語られています。また、一時は売名行為との噂を立てられるなど、苦しい時期もありました。

その活動に賛同したのが、当時の津青年会議所です。宮木康光理事長をはじめとするメンバーが支援を表明し、「岩田川清掃」を通年事業として取り組むことが決定されました。

当初は青年会議所メンバーのみで行われていた清掃活動でしたが、それでも1日の活動で自転車130台をはじめ、原付、廃タイヤ、冷蔵庫、空き缶など、数多くのごみが引き上げられました。中には30年以上前のものもあったそうです。

やがて、その活動に共感する企業や自治会が増え、市民、漁業関係者、行政を巻き込んだ大規模な活動へと発展しました。市民一斉清掃 DAY も実施され、津青年会議所は清掃前後の写真パネル展示や、家庭用水切り袋の配布などを通じて、市民の環境意識向上にも取り組みました。

東洋・名古屋・大塚・津・松阪
 斉新聞社 TEL 0592(23)0881 FAX (23)0110
 発行 23巻17号 本社/名古屋 支社/西宮・大阪・四日市・松阪・大塚
 6, 7, 27
 主要配布地/四日市・鈴鹿・津・松阪・伊勢

岩田川浄化した市民パワ－

核となった大谷さん(原)の活動

七夕(たなばた)の夜、津市岩田川の騒音騒ぎで「七夕騒音し」が催された。津青年会議所(宮木康光理事長)が始めたもので、今年で五回目。夏の風物詩として市民の間に定着してきたが、この年には規模を倍増しようと大谷さん(原)の努力が認められていた。

大谷 明さん

自治会、津JCCなど支援

昔の清流取り戻そうと...

岩田川(市内田原)の騒音騒ぎは、昭和50年代後半から始まった。大谷さんは、子供のころからこの騒音に悩まされていた。昭和50年代後半から始まった。大谷さんは、子供のころからこの騒音に悩まされていた。昭和50年代後半から始まった。大谷さんは、子供のころからこの騒音に悩まされていた。

「七夕騒音し」の際にも岩田川浄化を呼びかけた

岩田川浄化活動の様子



その後、地域とともに正式な組織として「岩田川懇談会」が発足。行政、企業、任意団体など21団体が参加し、それぞれが事業を行いながら、岩田川浄化への市民意識を高めていきました。

岩田川懇談会発足

みんなの想いを一つの声に

呼び戻せ美しい海川
市民グループが岩田川懇談会

あ・い・ん・ご ネットワーク

<p>クリーン御殿場 新殿場海岸の清掃活動</p>	<p>岩田川物語の会 夜下り 写生大会 ハゼ釣り大会</p>	<p>TSU アイリス 海岸近くの公園等の 清掃活動</p>	<p>三重ベンチャークラブ データカードを使用し ての清掃活動</p>
<p>津リングクラブ 花火大会等での清掃活 動</p>	<p>岩田川懇談会</p>		<p>各自治会 漁業協同組合 津市役所</p>
<p>大門大通商店 街振興組合 「ビューアーだいて七 夕祭り」を実施</p>	<p>津青年会議所 七夕笹流し 岩田川の清掃 etc ネットワークの事務局</p>	<p>三雲町商工会青年部 粟田川にて七夕笹流し を実施</p>	



呼び戻せ美しい海川
市民グループが岩田川懇談会

津市の中心部、岩田川沿いに、市民グループが、岩田川をきれいにする活動を行っています。その活動の一環として、市民グループが、岩田川懇談会を立ち上げました。この懇談会は、岩田川をきれいにする活動の推進を図るため、市民グループ、自治会、漁業協同組合、津市役所などと連携して活動していきます。

市民グループは、岩田川沿いに、清掃活動や、七夕笹流しなどの活動を行っています。また、岩田川沿いの環境を改善するため、市民グループが、岩田川懇談会を立ち上げました。この懇談会は、岩田川をきれいにする活動の推進を図るため、市民グループ、自治会、漁業協同組合、津市役所などと連携して活動していきます。

そして1990年、「普段から川に親しみ、愛着を持ってもらいたい」という思いから、第1回「つ七夕笹流し」が開催されました。これが現在の「つ七夕まつり」の原点です。

その後、「津七夕連絡協議会」が組織され、津青年会議所は青少年育成事業として、子どもたちの夢や願いを短冊に託し、岩田川を天の川に見立てた笹流しを行うようになりました。七夕笹流しと岩田川清掃を同時に行っているのは、こうした歴史と思いがあるためです。

現在でも、つ七夕まつりは多くの市民に親しまれ、毎年たくさんの来場者で賑わっています。

この事業には、津青年会議所の先輩方が掲げた

「笹を流しにきている子どもたちの笑顔、そして私たちの思い。いつの日か、子どもたちの夢と願いが、きれいな岩田川を流れていくことを願って」

という思いが受け継がれています。

その大きな第一歩は、大谷明さんという一人の市民の勇気ある行動から始まりました。その思いは津青年会議所へ、そして市民へと広がり、今では津市を代表する祭りとして岩田川美化活動へとつながっています。

つ七夕まつりの歩み

1989年

大谷明氏が、たった一人で岩田川清掃を開始。

その後、津青年会議所をはじめ多くの団体が協力し、大規模な清掃活動へと発展しました。

1990年

津青年会議所主催による「つ七夕笹流し」を初開催。

また、津青年会議所、津商工会議所青年部、津観音、丸之内商店街、大門商店街、津松菱、津市観光協会、新町商店街などによる「つ七夕まつり連絡協議会」が組織されました。

2020年

つ七夕まつり（笹流し事業）30年を迎えました。

2025年

「つ七夕まつり実行委員会」へと組織が拡大。

開催エリアも広がり、観音橋周辺を中心に、丸之内商店街、大門大通り商店街、津観音、観音公園など、津のまちなか一帯を舞台に開催される大規模な夏の風物詩となっています。

7月7日から7月第1週に祭り開催日を変更いたしました。

笹流しの裏側



2度と川を汚さないために。

